

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016年度(後期)指定公募

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための  
多職種研修会への助成」

完了報告書

「鮎みの会（多職種合同カンファレンス）」

申請者 : 佐藤 充

所属機関 : 医療法人社団東寿会 佐藤医院

提出年月日 : 2018年3月5日

## I 開催目的

在宅医療、介護従事者及び、行政、警察、消防の方など多職種が集まり、ケースカンファレンスを通し情報の共有、関係諸氏の連携強化を図り、包括的かつ継続的な在宅医療の提供体制を構築する

## II 期待される効果・波及効果

1 ケースカンファレンス・グループワークを通し一人ひとりの知識を身につけると

共に、多職種間の相互理解や情報共有することができる。

2 現場レベルでの医療・介護・福祉・行政等の連携が促進できる。

3 連携を深めることでスムーズなサービスの提供に繋がると共に、地域包括ケアシ



ステムの一部であるネットワークの構築となる。

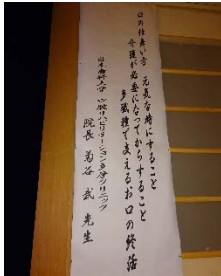

4 在宅医療と介護を一体的に提供するための課題解決に繋がる

## III 開催概要

### 開催日及びテーマ

日時	テ ー マ	参 加 者
2017年 5/12	企画会議 1) 年間計画の立案 2) 事例検討(困難事例における介護支援員の役割)	医師 5名 薬剤師 1名 病院看護師 2名・訪問看護師 2名・管理栄養士 1名・行政保健師 6名・ケアマネ 4名・事務局 2名  計 23名
5/18	第1回 鮎みの会 事例検討会 1) 事例紹介 「小地域見守りネットワークの実践」 2) ミニ講話 ① 疾患の理解 「前頭側頭葉型認知症について」 ② 地域活動の理解 「小地域見守り隊について」 3) 事例検討グループ討議	医師 2名・薬剤師 6名 警察署員 2名・消防署員 5名 看護師 2名・訪問看護師 5名 行政保健師 6名・介護施設長 2名・MSW 1名・ケアマネ 20名・社会福祉士 2名・柔道整復師 1名 自立生活支援専門員 1名 福祉活動専門員 1名 生活相談員 3名・看護学生 4名 事務局 2名  計 65名

		
8/18	<p><b>第2回 鮎みの会</b></p> <p>1) 事例検討会 「精神疾患患者の独居生活を支えるに当たって～在宅医療のあり方を考える～」</p> <p>2) ミニ講話 「精神科領域における社会復帰に向けたリハビリの取り組み ～よろず相談をとおして～」</p> <p>3) 事例検討グループ討議</p>	<p>医師 2名・歯科医師1名 薬剤師 3名・警察署員1名 消防署員2名・看護師9名・訪問看護師9名・行政保健師7名・MSW5名・ケアマネ20名・介護施設長1名・社会福祉士2名 柔道整復師1名・介護職2名 相談支援専門員1名 生活相談員1名・介護職4名 MR4名・事務局 2名 計 75名</p>
10/20	<p><b>第3回 鮎みの会</b></p> <p>講演会 テーマ 「多職種連携で関わる困難事例～患者・利用者の意思決定支援を支える～」</p> <p>講師 那須塩原クリニック 健康増進センター総合診療部医長 黒崎 史果 先生</p> 	<p>医師4名・歯科医師4名・薬剤師1名・警察署員1名・消防署員4名・社会福祉士3名・看護師12名・理学療法士3名・訪問看護師3名・行政7名・生活相談員2名・施設長2名・ケアマネ22名・その他2名 計70名</p>

12/14	<p><b>第4回 結みの会</b></p> <p>1) 事例検討会 「 ショートステイ利用者への 看取り介護 」</p> <p>2) 事例検討グループと討議</p>	<p>医師1名・歯科医師1名・ 薬剤師2名・警察署員1名・消 防署員5名・社会福祉士3名・ 看護師9名・訪問看護師3名・ ケアマネ22名・行政7名・ 生活相談員6名・その他6名 計66名</p>
2018年 2/11	<p><b>第5回 結みの会</b></p> <p>講演会 テーマ 「 口の仕舞い方 元気なときにすること 介護が必要になっ てからすること多職種で支えるお口の終 活 」</p> <p>講師 日本歯科大学 菊谷 武 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長</p>  	<p>医師2名・歯科医師12名・歯科 衛生士13名・薬剤師 2名・ 消防署員3名 ケアマネ20名・ 介護職13名・訪問看護師2名・ 看護師7名・栄養士4名・ 生活相談員6名・ 機能訓練指導員4名・ 行政 15名・一般 6名 その他4名 計 113名</p>

#### IV 平成 29 年度鮎みの会を終了して

鮎みの会（多職種合同カンファレンス）を開始し二年が経過した。一年目は、地域の対象者（患者・利用者）の情報を切れ目なく、地域の医療・介護関係者で共有し、どのような状態になっても安定した支援を提供する環境づくり、顔のみえる関係づくり、地域のヒューマンネットワーク構築を目的とし事例検討を中心に開催した。

今年度は勇美記念財団の助成を受けたことにより、事例に関するミニ講話や講演会などを取り入れることができた。それらは、自分達の事例検討の裏づけとなり、関係職種の資質の向上にもつながり好評であった。今後も継続していきたいと考えている。

その反面、地域包括ケアシステム構築に向け在宅医療・介護連携がどのようなシステムで構築されているのか？どのような会議が開催されているのか？行政の動きはどのようなになっているのか？それぞれの職種の活動を具体的に知りたいなどの意見も聞かれた。多職種の連携の重要性は理解しているが、具体的に他職種の業務理解や行政の動きの理解までには至っていないという現状も明らかになった。今後はこれらを普及啓発する企画が必要である。

鮎みの会は、2018 年度も継続していくことが決まった。次年度においては、会の運営方法の工夫 二年間継続してきた鮎みの会（多職種合同カンファレンス）で得た情報の可視可などを行っていききたいと考えている。

助成 ： 公益財団法人 在宅医療 勇美記念財団